

Crypto Diver 運営事務局 「暗号資産決済の意識と導入」に関する調査

8割が「客単価向上」期待

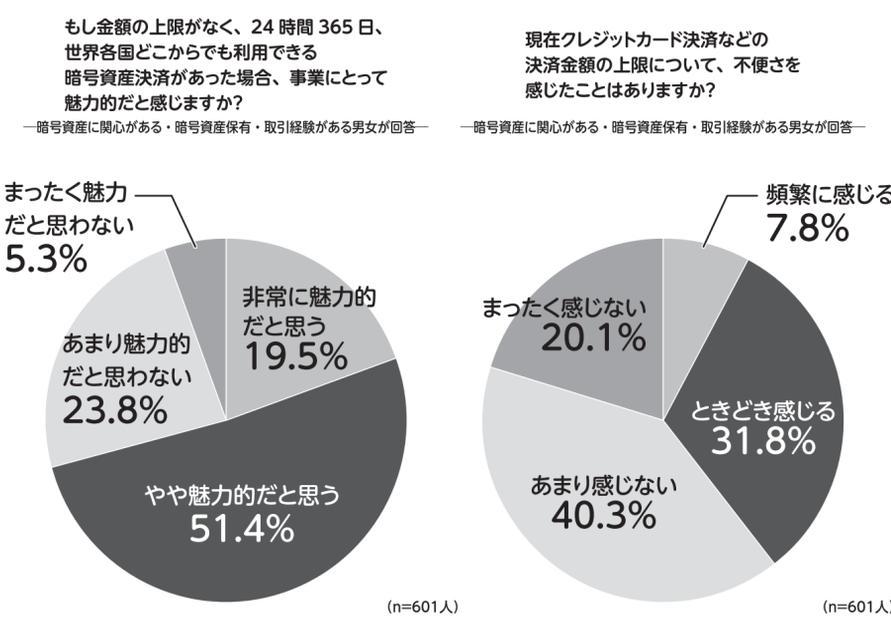
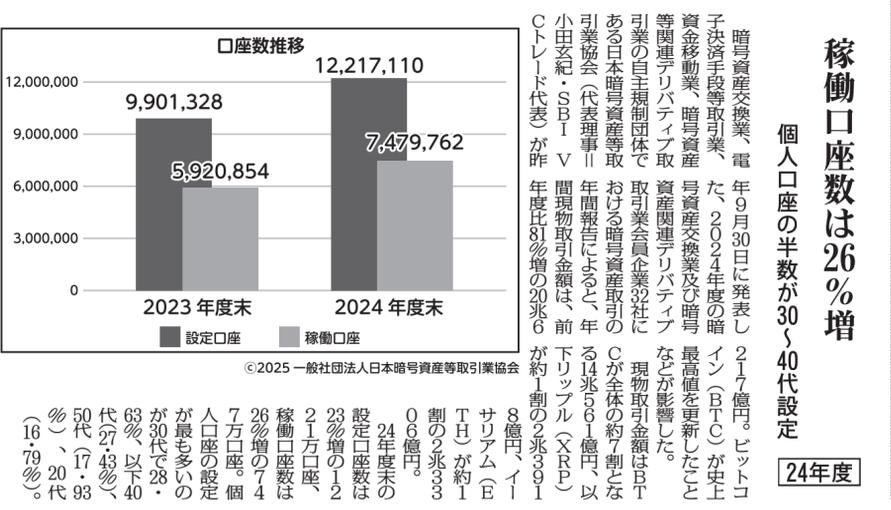
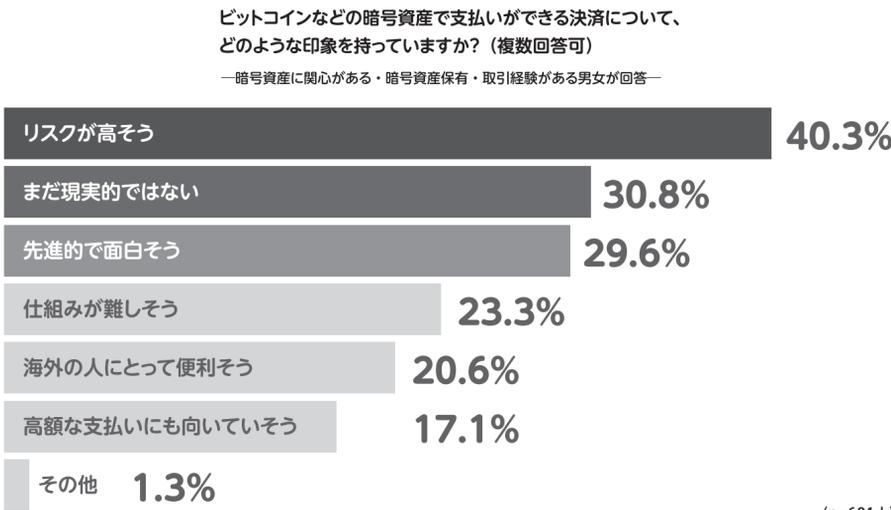
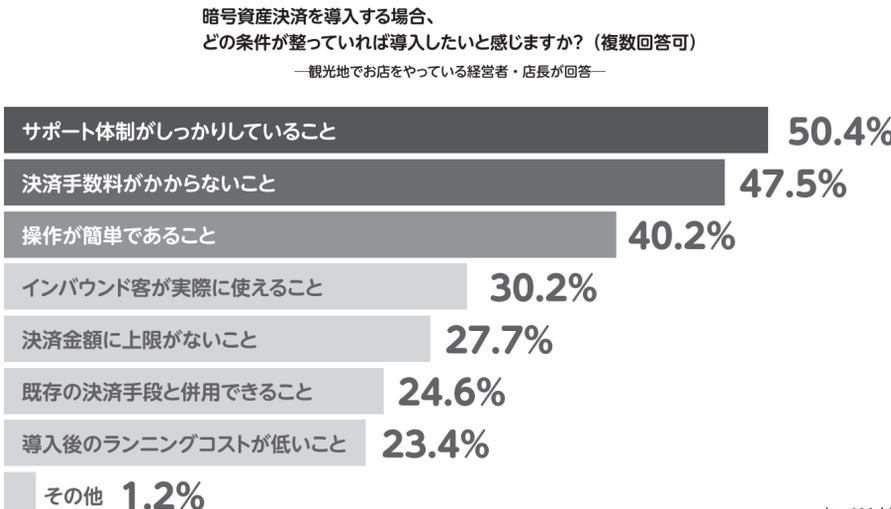
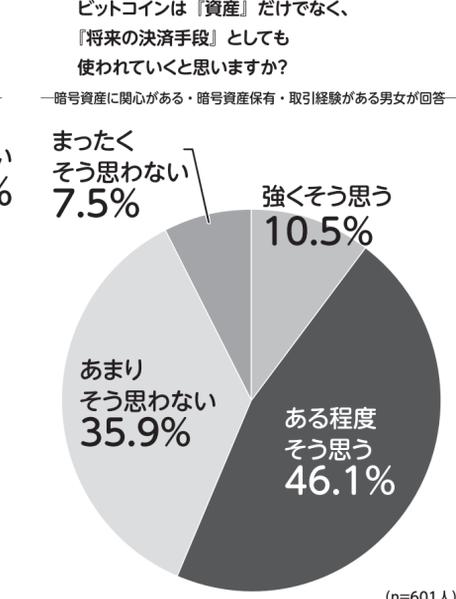
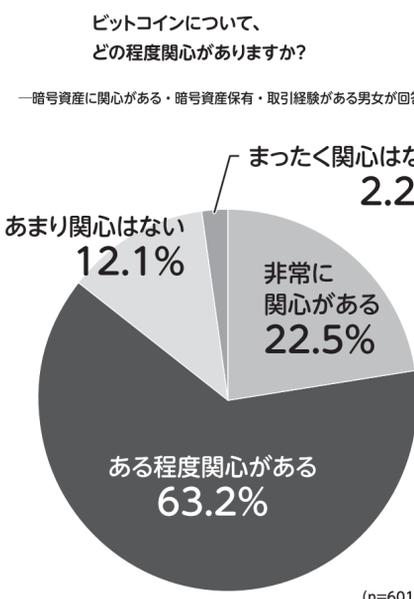
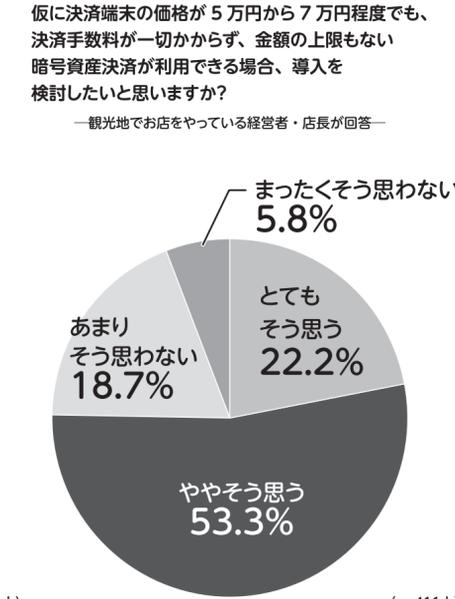
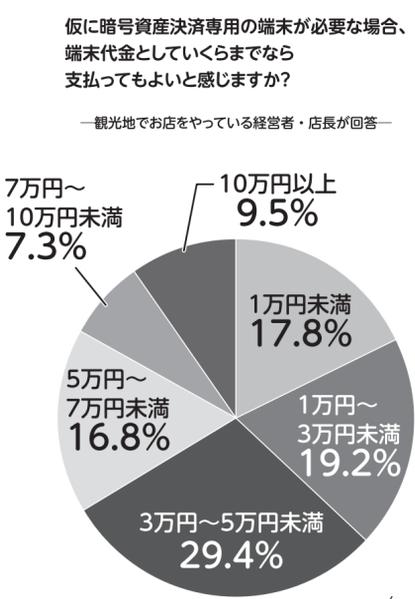
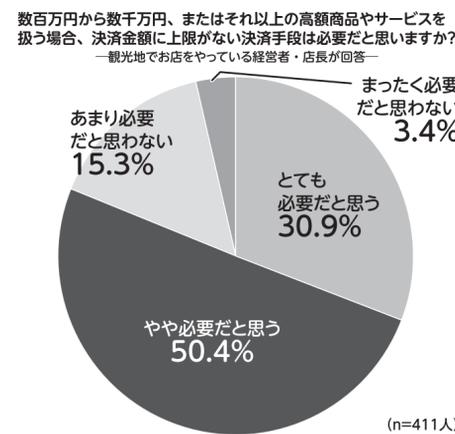
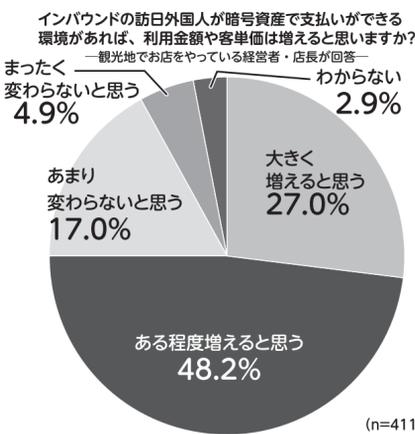
暗号資産決済の導入について、既存の金融システムに比べて、24時間365日、世界各国どこからでも利用できる暗号資産決済の導入が、事業者にとって魅力的だと感じている。調査は昨年12月24～26日、①暗号資産に関心がある・暗号資産保有・取引経験がある男女601人、②観光地でお店をやっている経営者・店長411人、計1012人を対象に、インターネット上で実施した。

属性①の回答者には、暗号資産「ビットコイン」が40.3%で最も多く、「将来の決済手段」として30.8%で、また現実的ではない、29.6%で先進的で面白い、51.4%と捉えられている。暗号資産の特長である「取引上の制約の少なさを

新たな手段となり得るがハイリスクの印象強く

「もし金額の上限がなく、24時間365日、世界各国どこからでも利用できる暗号資産決済があった場合、事業にとって魅力的だと感じますか？」という問いには、7.8%が「頻繁に感じる」、31.8%が「ときどき感じる」、40.3%が「あまり感じない」、20.1%が「まったく感じない」と回答した。

「現在のクレジットカード決済などの決済金額の上限について、不便さを感じたことはありますか？」という問いには、19.5%が「非常に魅力的だ」と感じている。また、51.4%が「やや魅力的だ」と感じている。一方で、23.8%が「あまり魅力的だと思わない」、5.3%が「まったく魅力的だと思わない」と回答した。



調査データ